

第 108 回 薬剤師国家試験問題検討委員会

「実務」部会報告書

2023 年 5 月 30 日

日 時 2023 年 5 月 13 日 (土)

場 所 Web (Zoom・城西大学)

委員長名：大嶋 繁 (城西大学)

アンケート回答大学：65 大学

出席者

大学	参加校数	参加人数
私立大学	56 校	94 名
国公立大学	18 校	18 名
計	74 校	112 名

1. 総合評価

概ね、臨床での問題解決能力をはかる良問が出題されている。また、症例（リード文）を読まなくても解答できる複合問題は少なくなったなどの好意的意見もあげられた。しかし、解答に必要な情報の不足、症例の検査値が不適切なため、問題の本質と異なったところで解答者を困惑させる問題があることや、正答は得られるが、実際には存在しない剤形がある等、実務実習を経験した解答者に不自然と思わせる問題の存在を指摘する声があった。委員会に参加した教員からはその他、次の改善すべき点があげられた。不正確な医薬品名については、薬剤師の国家試験としてふさわしくないと考えられ、これまでも部会として改善を要望している。以前より少なくなった印象をうけるが、確認することでなくすことができるため改善を強く望む。また、正答として1つの選択肢を選ばせる設問でも、実務領域では複数当てはまる選択肢があり、必ずしも1つに絞り切れない問題もある。選択肢を1つ選ばせる場合は、基礎系の問題と同様に実務の問題においても、「最も可能性のあるものはどれか」という表現にするなど、設問の仕方を工夫すべきである。最後に、ガイドラインにあるが適応外使用、添付文書にあるが稀なケースなども出題されており、勉強しなければいけない範囲が限りなく広がる。全ての問題が薬剤師の資格試験として適切な問題になることを強く要望する。

2. 各項目の評価

1) 誤りがあると判断された問題

ここに廃問になった問題を記載することは承知しているが、問 288 は今回の部会で、廃問に相当する問題としてあげられたので記載する。

問 288：多くの教員の見解は、「正解を2つに絞れない。」である。

2 は明らかに適切であるが、1・3・4 のいずれも適切な可能性がある。

その理由は以下のとおりである。

1. のラベプラゾール Na 錠は、重篤な副作用に血小板減少があるため、投与中止する可能性がある。
3. の問題の患者は APL 寛解導入療法であり、シタラビン 100 mg/m²/day となると考えられる。一般的にシタラビンによる結膜炎予防に対しステロイド点眼を用いるのはシタラビンの大量療法時であり、この

問題の投与量ではステロイド点眼は不要であり、確認すべき内容である。

4. の腫瘍崩壊症候群対策のため追加確認を必要とする。

2) 問題の観点から不適切である問題

問 82：添付文書には「ゆっくり（3時間以上かけて）投与する。」と記載されているが、静脈経腸栄養ガイドラインでは、0.1g/kg/hr となっており、臨床現場でもガイドラインに準拠して使用している。ガイドラインに準拠すれば、体重 50 kg の患者では 10 時間かける必要がある。薬剤師国家試験出題基準では、「実践に即した問題抽出・解決能力を確認する観点から、実践の場で取り得る解答肢の中から最も適切なものを選択する問題も出題する。」と記載されているが、この問題の解は、実践で取り得ないものである。

問 84：アタザナビルは、ファーストラインとして汎用される薬剤ではない。必須問題として出題する薬剤は、多くの解答者が実習で遭遇する可能性の高い薬剤を用いるべきである。

問 87：正解のアルジオキサは臨床（一般用医薬品）で使用頻度の少ない薬品である。ヒマシ油も同様である。必須問題の出題基準は「基本的な知識を問う」と記載されている。必須問題では使用頻度の高い薬剤や成分を用いるべきである。

問 220：問題文の中に、この患者が食道・胃静脈瘤の治療中である旨は記載されておらず、「ランソプラゾールがその治療期間中の胃潰瘍を予防する目的で投与されている」という選択肢を選ぶのは難しい。また、適応外使用については、出題基準をはっきり示すべきである。

問 227：参考としている論文から数字等を大きく変え出題するのであれば、新規に作成するのが望ましい。

問 265：ガイドラインではプレガバリン投与を推奨しておらず、デュロキセチンのみが「提案」する薬剤として記載されている。実務実習を経験している解答者に対して明らかに不適切な問題である。

問 284：選択肢を 6 つにすると正解率が急激に下がる。他の問題の選択肢が 5 つであるのに、この問題のみ 6 つにする必要はない。資格試験の問題として相応しくない。

問 326：口内炎と浮腫はタクロリムスとエベロリムスで生じる副作用である。副作用に関する出題は、出題対象薬剤の中で、その薬剤に特有の（特定できる）副作用を出題すべきである。また、血中濃度の採血ポイント（トラフ値であること）を問題文に明記したほうがよい。さらに、スウィーティーではなく、もっと一般的に広く知られている飲食物を出題に用いるべきである。これらの理由により問題の本質とは異なった理由で難易度が高くなっている。また、アセスメントに関する出題であるため、「～である」「～した」といった断定的な表現でなく、「～と考えられる」や「～の可能性が高い」などの表現が適切である。

問 328：国家試験の実務の問題で基準を用いる場合、日本人でバリデーションされたものを使用すべきである。この問題では改訂日本版フレイル基準（J-CHS 基準）を用いるべきである。

問 341：選択肢 4 を正解とすることは明らかに間違いである。

解答の選択肢を消去法で考慮すると、結果として 1・4 が正答となるが、選択肢 4 について EC 療法に対してメスナを積極的に使用すべき根拠を見つけないことができない。シクロホスファミドによる出血性膀胱炎の予防にメスナは有効であるが、本患者は EC 療法、体表面積も 1.61 m² であり、年齢 37 歳のため臓器機能も異常の記載がなく、シクロホスファミドの大量投与には該当しない。添付文書においても、適応症は『イホスファミド投与又はシクロホスファミド（造血幹細胞移植の前治療）投与に伴う泌尿器系障害

（出血性膀胱炎，排尿障害等）の発現抑制』であり、EC療法時の使用は想定されていない。

問 342：Grade4 の高血圧が発現した場合にはベバシズマブを中止する必要がある（アバチン適正使用ガイド、卵巣癌）。また、添付文書にもコントロール不能の高血圧、高血圧性クレーゼなどがあらわれた場合には、ベバシズマブを中止するように記載されており、選択肢3は正解となる。血圧上昇の程度について詳細が記載されていないため、正誤を判断できない。問題の本質が希薄になるような選択肢を避けるべきである。

問 344：アファチニブは、国家試験に初めて出題された。消去法で正答できるような選択肢の工夫もされておらずアファチニブについて詳しく学習していないと正答できない問題である。実務実習でも取り扱うことが多い、もしくはブロックバスター的な位置の薬剤であれば、このような出題でもよいが、もし、この問題の正答率が30%以下であれば、今後、出題する薬剤を検討する必要がある。

3) 問題・選択肢の表現が不適切である問題

問 82：「イントラリポス輸液 20%250 mL 袋」は製品名なので「注：一般名」を追加すべきである。また、商品名の場合、登録商標マーク（R）をつけるべきである。

問 229：ピラジナミド錠は存在せず、製剤としては散剤のみである。実際に使用されている剤形を出題すべきである。

問 231：シアン中毒は、悪心・嘔吐などの消化器症状は少ない。むしろよく見られる、めまい、顔面潮紅、過呼吸を症状として記載するのがよい。

問 245：メチレンブルーは総称名で、一般名はメチルチオニウム塩化物水和物である。国家試験でよく知られた名称を用いる場合、一般名を併記すべきである。

問 251：バゼドキシフェン錠の正式名称はバゼドキシフェン酢酸塩錠である。医薬品名については国家試験問題全体で統一すべきである。

問 252：40 本/日を 50 年間継続している患者で「息苦しさ」が認められた場合、呼吸疾患（症状）を疑ってしまう。問題の本質以外で解答者を悩ます記述は避けるべきである。

問 255：設問の「重要性の高いのはどれか」は、あいまいな表現のため解答者が問題の本質以外で悩んでしまう。筋肉痛や赤褐色の尿も当てはまる可能性があるため、「処方薬の薬理作用に基づく」などを挿入することで出題意図が解答者に正確に伝わる。

問 280：選択肢5は、他の選択肢と異なり、製剤・薬物とは異なった「疾患」についての選択肢となっており、違和感がある。

問 327：選択肢5に主語が2つあり理解しづらい文書である、「高齢者における口腔機能の低下はオーラルフレイルを引き起こし、誤嚥性肺炎を引き起こす恐れがあるため、定期的な歯科受診は重要である」のように句読点を適切に使うべきである。

問 332：文の前半が、『引き起こし得る [重大な健康被害]』との表現であるため、後半の「正しいのはどれか」は、「最も注意すべき組み合わせとしてはどれか」の表現が適切である。

問 333：「ただし」以下の表現は、『本患者におけるポリコナゾールの全身クリアランスおよびバイオアベイラビリティは、はそれぞれ 0.2 L/hr/kg、75%とする。』との記載が適切である。なお、維持投与量が 3 mg/kg とあるが、1 日量なのか 1 回量なのかが不明であるため、3 mg/kg/回としたほうがわかりやすい。

問 340：選択肢2は薬剤師の対応ではないため、違和感がある。

問 344 : EGFR 遺伝子変異陽性の「EGFR」はイタリックである。また、【適切でないのはどれか】の問題文で、否定語（・・・しない。）の選択肢との組み合わせは、紛らわしいため、できる限り避けるべきである。

4) 「複合性が不適切である問題」

複合性が認められない問題。

問 196、問 198、問 200、問 210、問 215、問 220、問 263、問 275

問 273 : 前問の正答肢が「Cmax/MIC 「または」 AUC/MIC」となっているが、Cmax/MIC に基づかないと正解を導けない。AUC/MIC を基準としてしまうと解が異なってしまう。

5) 「授業で教えた内容か」

問 206 : 実務の問題として、亜鉛と銅の吸収について教えていない。

問 212 : 血清カルニチン低下による低血糖は、過去に適正使用情報で周知されているが、添付文書に強調した記載がなく、強調して教えていない。

問 217 : 舌下免疫療法の具体的な服用方法については教えていない。

問 222 : 通常の点鼻薬の指導は教えているが、デスマプレシン点鼻スプレーの指導までは教えられていない。「一部教えていない」大学が 20 校程度あった。

問 288 : シタラビンによる結膜炎対策については教えていない。実務実習で経験する可能性も極めて低いと思われる。

問 291 : アセチルシステインをソフトドリンクで希釈して投与することについて教えている大学はごく少数である。また、実務実習で学ぶ機会も非常に少ない。

問 299 : バルプロ酸 Na による尿素サイクル阻害については概説しているが、カルニチン欠乏に至る詳細な機序まで教えていない大学が多い。

問 305 : リビングウィルの内容を深く掘り下げたディスカッションをしていない。

問 326 : 移植医療はどここの病院でも実施している治療法ではないため、実務実習中にかかわる機会の有無が影響する。また、スウィーティを大学および実習先で学ぶ学生は少ない。

問 328 : CHS 基準を教えていない大学が多い。

問 330 : 「せん妄」への適応は適応外使用のため触れていない大学が多い。

問 344 : アファチニブの食事の影響、代謝経路について教えていない大学が多い。

6) その他の特記事項

問 200 : 医療現場で実際に使われるような計算で重要である。

問 202 : 画像などに関する問題を出題することは、良い傾向である。

問 204 : 臨床現場で用いられる器材などに関する問題を出題することは、良い傾向である。

問 245 : 2021 年に医療機関で実際に取り上げられた内容に関する問題であり、地域社会に貢献できる薬剤師を育てるという観点からは、実社会での問題に関心を持たせるような出題は良い傾向である。

問 288 : APL がまれな疾患であるため、実務実習で学ぶ機会が少ない。

問 291 : ソフトドリンクへの混合に関しては、アセチルシステインの添付文書に記載はあるが、教えてい

ない。実習の場でも多くの学生が経験しない。

3. 各問題の評価

別紙1のとおり

	番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
必須 問題	81	0	65	1	0	66	0	1	65	0	0	65	1
	82	1	65	0	1	65	0	2	62	2	0	61	5
	83	0	66	0	0	66	0	0	66	0	0	65	1
	84	0	66	0	2	64	0	0	66	0	3	54	9
	85	0	67	0	1	66	0	0	67	0	2	59	6
	86	0	66	0	0	66	0	0	66	0	0	61	5
	87	0	65	0	1	64	0	1	62	2	2	53	10
	88	0	66	0	0	66	0	0	66	0	0	65	1
	89	0	65	0	0	65	0	0	65	0	0	62	3
	90	0	65	0	0	65	0	1	64	0	0	62	3

	番号	誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
複 合 問 題	196	0	65	0	0	65	0	4	60	1	1	61	3	2	58	5
	198	0	65	0	0	62	3	2	63	0	2	59	4	2	53	10
	200	0	65	0	0	64	1	0	65	0	2	61	2	1	60	4
	202	0	65	0	0	65	0	3	60	2	0	64	1	3	49	13
	204	0	65	0	0	61	4	0	65	0	2	61	2	4	43	18
	206	0	65	0	0	63	2	1	64	0	0	64	1	2	52	11
	208	0	65	0	0	64	1	0	64	1	1	64	0	2	58	5
	210	0	65	0	0	65	0	1	61	3	1	61	3	2	61	2
	212	0	65	0	1	61	3	0	65	0	0	64	1	5	49	11
	215	1	64	0	0	64	1	1	64	0	1	62	2	0	57	8
	217	0	65	0	1	62	2	1	62	2	0	65	0	4	44	17
	218	0	65	0	0	65	0	1	64	0	1	63	1	1	61	3
	220	0	65	0	3	62	0	4	61	0	1	61	3	2	58	5
	222	0	65	0	0	64	1	0	64	1	1	62	2	1	47	17
	224	0	65	0	0	63	2	1	64	0	0	64	1	1	56	8
	227	0	65	0	1	64	0	0	65	0	0	65	0	0	61	4
	229	0	64	0	0	64	0	3	61	0	0	64	0	0	61	3
	231	1	63	0	0	63	1	3	61	0	1	62	1	4	50	10
	232	0	64	0	1	61	2	1	63	0	0	61	3	4	53	7
	234	0	64	0	0	63	1	0	64	0	0	64	0	1	57	6
	236	0	64	0	0	64	0	1	63	0	0	63	1	4	52	8
	239	0	64	0	1	63	0	0	64	0	0	64	0	5	53	6
	241	0	64	0	0	64	0	1	62	1	0	64	0	8	47	9
	242	0	64	0	0	63	1	2	62	0	0	64	0	2	55	7
	245	0	64	0	0	64	0	0	64	0	1	63	0	4	56	4
	247	0	65	0	1	63	1	0	65	0	0	65	0	4	54	7
248	0	65	0	1	63	1	1	64	0	1	62	2	0	63	2	
251	0	65	0	0	65	0	3	61	1	0	64	1	5	55	5	
252	1	64	0	1	64	0	2	63	0	2	63	0	4	59	2	
255	1	64	0	1	64	0	3	62	0	1	63	1	4	57	4	
256	1	63	1	2	63	0	4	61	0	2	62	1	3	56	6	
258	1	64	0	1	64	0	3	62	0	2	61	2	2	62	1	

番号	誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えて		
	ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
261	1	62	2	1	64	0	4	61	0	1	63	1	2	59	4
263	0	66	0	0	65	1	2	64	0	1	64	1	2	64	0
265	1	64	0	4	60	1	5	60	0	1	62	2	2	61	2
266	0	64	0	1	62	1	2	60	2	0	63	1	0	53	11
269	0	64	0	0	64	0	3	60	1	0	64	0	0	60	4
270	0	64	0	0	64	0	1	61	2	0	64	0	0	58	6
273	1	62	1	0	64	0	1	61	2	2	59	3	2	61	1
275	1	62	1	1	63	0	3	60	1	1	60	3	1	58	5
276	1	63	0	0	64	0	1	62	1	0	64	0	1	56	7
279	0	64	0	0	64	0	2	61	1	1	61	2	1	60	3
280	0	64	0	2	59	3	6	55	3	0	62	2	3	48	13
282	0	63	1	0	63	1	1	62	1	0	62	2	2	42	20
284	0	64	0	0	62	2	1	62	1	0	61	3	3	52	9
286	0	64	0	0	63	0	1	59	3	0	62	1	0	62	1
288	9	45	9	8	47	8	15	42	6	0	60	3	3	38	22
291	0	62	1	1	61	1	2	61	0	0	62	1	5	50	8
293	0	63	0	2	58	3	0	60	3	0	60	3	7	43	13
295	0	63	0	0	61	2	2	59	2	0	61	2	1	59	3
297	0	62	1	3	59	1	4	58	1	1	59	3	0	58	5
299	0	63	0	3	59	1	1	61	1	0	62	1	5	44	14
301	0	63	0	0	62	1	1	62	0	0	62	1	1	56	6
303	0	64	0	0	64	0	2	62	0	0	62	2	3	48	13
305	1	61	1	2	61	0	3	60	0	0	61	2	3	54	6
307	0	65	0	0	65	0	0	65	0	1	63	1	0	64	1
309	0	64	1	0	63	2	2	61	2	0	64	1	1	55	9
310	0	65	0	0	65	0	2	62	1	0	64	1	1	59	5
312	0	65	0	0	65	0	1	63	1	0	64	1	1	61	3
314	0	65	0	1	64	0	2	63	0	0	63	2	1	61	3
317	0	65	0	0	65	0	0	65	0	0	64	1	0	59	6
318	0	65	0	0	64	1	2	62	1	0	62	3	2	61	2
320	0	65	0	2	62	1	1	63	1	0	64	1	2	62	1
323	0	64	1	0	64	1	1	62	2	1	61	3	3	58	4
324	0	65	0	0	65	0	1	61	3	0	61	4	1	61	3

番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて		
	ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
326	0	65	0	3	61	1	5	58	2	5	44	16
327	0	64	1	2	61	2	2	62	1	5	52	8
328	0	64	1	2	61	2	0	63	2	4	48	13
329	0	64	1	0	64	1	2	61	2	1	61	3
330	0	65	0	1	63	1	1	63	1	4	57	4
331	0	65	0	0	64	1	1	64	0	3	58	4
332	0	65	0	2	63	0	0	64	1	0	62	3
333	0	65	0	3	60	2	2	61	2	2	61	2
334	0	65	0	0	65	0	0	64	1	0	64	1
335	0	65	0	2	62	1	2	61	2	0	63	2

	番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
薬学 実践 問題	336	0	65	0	0	65	0	1	64	0	0	64	1
	337	0	65	0	0	65	0	1	64	0	1	63	1
	338	0	64	1	1	64	0	1	63	1	6	55	4
	339	0	64	1	1	64	0	2	61	2	4	56	5
	340	0	65	0	1	64	0	2	63	0	0	58	7
	341	4	62	0	5	60	1	6	59	1	0	64	2
	342	1	63	2	2	62	2	4	60	2	1	59	6
	343	1	65	0	0	65	1	2	64	0	2	54	10
	344	0	66	0	1	62	3	9	56	1	2	52	12
	345	0	66	0	0	66	0	1	65	0	0	62	4

(注)数字は回答大学数である。